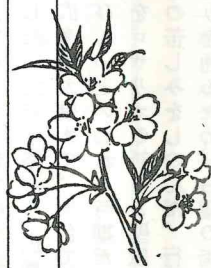


仙台司教区 教区事務所だより



(第 66 号)
昭和58年4月1日

主のご復活をともに喜び祝おう

聖年の恵みを小教区教会の平和の実現に

キリストは私たちのために血を流して、永遠の父にアダムの罪の負債を返し、その重荷をといてくださった。

きょうこそまことの超越の祝い、神の小羊がほふられ、信ずる者はその血によつて神の民となる。

— 復活の賛歌 —

主の復活のよろこびにみたまされて、私たちは力づく信仰宣言をとまえ、また新しい信仰生活を始める。各小教区教会でも、四旬節の深い沈黙からよみがえつて、活動を開始することになろう。

今年度の二つの課題

さて、3月25日(神のお告げ)にローマの聖ペトロ大聖堂の聖年の扉が開かれ、特別聖年が始まった。すでに仙台教区でも、特別聖年のための司教書簡が発表された。今年の仙台教区では、この「贖いの聖年」と年間司牧

目標「小教区教会にキリストの平和を」の実施が大きな課題となろう。撰理的にこの二つのテーマはきわめて深いかかわりをもっており、しかも私たち信者の信仰生活の基本となるものだから、手ごたえのある実践がなされるにちがいない。

たとえば、家庭でも小教区教会でもキリストの平和を実現するには、私たちお互いの和解(ゆるし合い)がどうしても必要である。そしてこのゆるしは、救い主キリストが十字架の死と復活で人間を救い、罪をゆるしてくださったこと(贖い)を信じ、この信仰に生きることで可能になるのである。

特別聖年の祝いも霊的恩典も、まずキリストの救いのみ業をよく理解することによって果されるであらう。特別聖年の良き機会に、私たちは大きなお恵みを与えられるように努め、このお恵みによつて家庭や小教区教会にキリストの平和をみたますようにしたい。

教皇訪日二周年のつとめ

教皇ヨハネ・パウロ二世は3月上旬、政治抗争にゆれ動く中米七か国を訪れた。就任以来十七回目の海外訪問である。教皇のこうしためざましい行動力は、教会が現代社会に生きていることを示すだけでなく、社会に対する教会の責任をつよく感じているからである。私たち信者が日常生活でいかにキリストを証しするかという問いに、ひとつの示唆を与えるとともに勇気づけ励ますものにもなる。

教皇訪日二周年を迎えた私たちは、もういちどあらためて教皇が日本の教会にのぞまれたねがいを思い、教皇メッセージを読み返してみることが必要である。おそらく現代社会に生きる私たちにとつて、果すべき使命がすべて示されているといつていいだろう。それは、平和にみたまされた家庭や小教区教会を、いつそり豊かにするものでもある。

司教日程

(3月16日現在)

- 4月11～13日 男子管区長協議会総会(東京)
- 17日 豊屋町教会堅信
- 24日 湯本教会堅信
- 25日 教区司祭団月例会
- 26～27日 神学校常任委員会(東京)
- 30日 聖ウルスラ小学校、木ノ下修道院落成式(仙台)

岩手地区信徒連絡会代表者会議

「センター事業計画」きめる



岩手地区信徒連絡会の代表者会議がさる2月27日午後1時半から、盛岡市の岩手カトリックセンターで開かれた。

会議に先立って、教皇の訪日二周年を記念する講演が行われ、東京教区の深水正勝神父が、「みなしごの父、やもめの助け」と題して話し、参加者の感銘を新たにした。

議題は、教区司牧評議会にのぞむ岩手地区の態度と、昭和58年度の岩手カトリックセンターの事業計画。前者は地区の評議員に一人され、センター事業計画は提案を承認したが、センターの事業として新年度以降チャリティ映画会を定着させることなどがきまつた。

なお、教区司牧評の岩手地区評議員には、石川晃氏(志家)、菅原庄市氏(大船渡)が再選され、石川氏は連絡会会長を重任することとなった。

青森宣教百年を記念し

青森県信徒大会を今秋に決定

青森県宣教百年実行委員会ではかねてから宣教百年祭について検討中であつたが、その記念式典を信徒大会として行うことに決定、本年9月25日(日)に青森市で開催することになった。今年には特別聖年にもあたり、信徒大会にこの二つをどのように盛り込んだ記念行事にし

たらよいか目下検討中である。

いづれにせよ、青森県の信徒にとつて今年の9月25日は、ピク・イベントになるものと期待されている。

「福島県のつどい」は

9月15日敬老の日に

福島県の信徒大会ともいふべき「福島県のつどい」は、9月15日の敬老の日に行うことに決定した。場所は桜の聖母学院中・高等学校。目下準備委員会を中心に、具体的な内容について検討している。

殉教地までロザリオ行進

— 仙台広瀬川殉教祭 —

仙台教区二月の恒例行事、「仙台広瀬川殉教祭」がさる2月27日午後1時半から行われた。ことしは元寺小路教会から広瀬川の殉教者像まで、宣伝カーを先頭に市内をロザリオ行進した。

元寺小路教会で行進前の祈りをした仙塩地区からの参加者約百五十人は、パトカーに先導された横幕とスピーカーをつけた宣伝カーを先頭に行進した。元寺小路から、広瀬通り、一番町を経て広瀬川大橋まで。仙台ではいちばん寒さのきびしいといわれる時期だけに、小雪の舞う中をロザリオの祈りと聖歌をうたひながら殉教の苦しみをしるんだ。行進は市内の目抜き通りを通るため、日曜の街にぎ

わり市民たちは、この風がわりなデモ行進におどろいたもよう。宣伝カーからは仙台のキリタン殉教のいわれとともに、教区の今年度司牧目標「家庭から社会へキリストの平和を」にもとづく家庭に平和を、のアピールが行われ、キリスト者の心意気を示した。

殉教者像前でのみことばの祭儀には、待ち受けていた信徒五十人も加わり、壮烈な殉教のようを伝える殉教録を心を新たに聞いて聞いた。説教をしたラ・サールの下山茂夫修道士は、キリストを証しするとはどういふことかと問いかけ、日常に会おう小さな苦しみ、小さな愛もないがしろにしないよう説いた。

広瀬川殉教祭は、一六二三年二月、仙台市広瀬川大橋付近で水漬けの殉教をとげたディエゴ・カルワリオ神父と八人の信徒をしるものである。

寿庵祭は6月5日

教皇大使も参加予定



今年の寿庵祭は、来る6月5日午前9時30分から、水沢市福原の寿庵廟前で行われることにきまつた。

例年なら5月の最終主日に行われるのだが、今回は駐日バチカン大使マリオ・ピオ・ガスパリ大司教を迎えるためで、例年にも増して盛会が予想される。なお今年は「特別聖年」にあたるので、寿庵祭の参加者は共同の儀式に与り、条件を果すことよって全免償が与えられることになった。

岩手地区で

教会奉仕者 研修会



近年、教会奉仕者の果すべき役割が新しい課題となつて取り上げられているが、岩手地区では、アントニオ・ツィゲル神父を中心に年間を通しての研修会が企画され、去る2月19日(日)の二日間、岩手カトリックセンターでその第一回の研修会が開かれた。県内13の教会から47人が参加、その年齢構成は、20代と30代が各11%、40代と50代が各31%、60代が16%であった。

第一日目は、19日午後5時から始まり、開会にあたり花巻教会のゲーヴィレル神父がこの研修会の意味、必要性と目的について説明があり、その後第一講話「超越の神秘」を水沢教会のローネル神父が担当。現代のミサの意義を出エジプトの時代にまでさかのぼり、歴史的な分析と終末論的考察がなされ、超越の神秘の再現としての聖体祭儀の意味が明らかにされた。第二日目は釜石のシューマール神父が二講話を担当、「聖書による典礼の要点」「古代教会の典礼」について、初代教会のミサ、聖体制定の聖書の意義などを解説、現代における聖体の保存と授与についての心構えが説かれ、聖体奉仕者の役割を理解した。この研修会は今年度中に4回行われる予定で、二回目は聖体の授与のしかた、三回目はみことばの祭儀の神学的背景、四回目は、みことばの祭儀の具体的やり方など、いずれも

典礼に関して一貫したテーマをもつて勉強することになる。

一本杉・豊屋町教会

合同黙想会 開く



去る2月27日、仙台・一本杉教会と豊屋町教会が合同で復活祭の準備のため、豊屋町教会を会場に黙想会を行なった。

朝9時のミサは両教会の主任司祭、P・ラボア神父と斎藤石雄神父の共同司式でさげられ、両教会の信徒約80人が参加した。そのあと、「日本人とキリスト教」というテーマで上智大学教授安斎伸氏の三回の講話があつた。

安斎氏は仙台出身で、青年時代まで仙台に在任、洗礼も元寺小路教会で当時の主任司祭ピソネット神父から受けており、いわば仙台教区の身内の方。講話の中ではこれまでキリスト教が、ともすれば律法主義、形式主義的になりがちだった事を反省。愛の神、赦しの神に信頼を置いて生きるといふ本質的な部分を大切にし、特に多くの宗教が雑居している日本において、キリスト者が持つべき心を巧みな話術で話し、参加者を魅了した。

召命は祈り豊かな家庭から

4月24日は

世界召命祈願日

4月24日(日)は世界召命の日にあたる。世界中の信徒が心をあわせて司祭、修道者の召命のために祈ろう。

両教会にとつて合同の黙想会は今回初めての試みであつたが、お互いの交流のため、これからも近い教会同士協力しあつていこうと、体験を喜びあつた。

働く青年のつどい(J.O.C)

白石教会で

去る2月26日の夜から27日にかけて働く青年達の全国的なつながりであるジョック(J.O.C)のつどいが白石教会で行われた。

参加者は、千葉・市川、東京・川崎のリーダーと二人の神父、そして仙台から四人のリーダーと首藤正義神父が出席。リーダーの大部分が、きびしい労働に直接従事しており、職場は違つても労働者としての立場は同じでお互いのよろこび、苦しみ、悩みなどをわかちあい、打ちとけた話し合いが行われた。なお仙台では毎週火曜日午後6時半から元寺小路教会で働く人のつどいが開かれている。

セイエ神父

弘前教会に着任



昨年7月、弘前教会にピエール・セイエ神父が着任。若い人達の指導に活躍している。ピエール神父は昭和54年8月カナダから来日したケベック外国宣教会会員。来日後2年間は東京六本木の日本語学校で勉強。そのあと2年間東京大神学校で聖書学、上智大学で歴史を勉強して、昨年7月、弘前教会に赴任した。

仙台教区における

「贖いの特別聖年」

具体的な実施について

先日、聖年の司教書簡と資料が各教会、修道院に送られた。全信者が聖年の意義と実施事項をよく分かるために、教皇教書「贖い主に扉を開け」や司教書簡を読み返すとともに、各教会で話し合われることがぞまれる。実施事項とは私たちが聖年の恵みとして全免償を受ける機会、共同の祭儀に与ることと聖年の巡礼を行うことの二つ。教区では次のようにきめたが、詳細は資料参照のこと。

一、特別聖年の意向とふさわしい準備をもつて行われる次の共同の祭儀に与る

- ①特別聖年のミサ②みことばの祭儀③共同回心式(個別の告白、赦免を伴う)④秘跡(洗礼、堅信、叙階)の荘厳な執行⑤聖年の信心業(十字架の道行、黙想会)。以上が地区、小教区、修道院、グループで行われたとき、参加者はその条件を果すことで全免償を受ける。

二、指定教会に聖年の巡礼を行う

- (1) 教区外の巡礼(ローマや他教区の巡礼) 教区独自のローマ巡礼団はつくりたくない。長崎への巡礼団は希望者が多いとき適当な時期の実施を考慮。個人の巡礼は自由。
- (2) 教区内の巡礼、次の教会を巡礼教会として指定した。小名浜、宮古教会は追加。
- ①仙台市・元寺小路教会②青森市・本町教

会③盛岡市・四ツ家教会④郡山市・郡山教会⑤小名浜市・小名浜教会⑥宮古市・宮古教会。巡礼は個人、家族、グループでもよく、訪問した教会で贖いの業を黙想してから主禱文と信仰宣言をとまえ、教皇の意向にしたがって祈ることで全免償を受ける。

(3) 巡礼の特例

- ①健康上の理由で巡礼教会にゆけない人は自分の小教区教会で巡礼できる。
- ②病床や老人ホームにいる人は、巡礼者と心を合せ霊的に巡礼して全免償を受ける。
- ③観想修道会の修道女は、修道院聖堂の訪問で巡礼を果すことができる。

●聖年中の水沢の寿庵祭、仙台の広瀬川殉教祭、会津若松のキリシタン塚での共同祭儀は聖年の意向で行い、参加者は条件を果すことで全免償を受けられる。また教会のグループが他の教会を訪問して聖年の共同祭儀を行うときも同様である。

全免償とはなにか、聖年の免償とは、

ゆるされた罪に対する有限の罰がすべて取り除かれること。小罪を含めて罪への執着心が全くないことが大事な心構えだが、秘跡的告白、聖体拝領、教皇の意向にしたがって祈ることが三条件。聖年では教皇が与える特別な機会(共同祭儀と巡礼)に、前記三条件を果すことによつて全免償が与えられる。共同祭儀や巡礼のそのとき告白や聖体拝領が果されない時は、前後数日間に果せばよい。全免償は一日一回受けることができ、それを死者のために捧げることができる。



●映画会「ナザレのイエス」(青森市)

青森市キリスト教協議会(カトリック・プロテスタント合同)では左記のとおり、映画会を行うことになった。この映画会は教派を超えて広く市民にキリスト教を伝えようとするもの。

日時 4月16日(土)午後2時、6時の二回

場所 青森市民文化ホール

会費 三百円(青森の各教会で販売中)

●研修会

「カテケージスのためのワークショップ」

講師 G・グリフィン神父(コロンバン会)

・ 吉田礼子氏

・ 日時 7月26日(火)から29日(金)まで

・ 対象 司祭・修道者

・ 場所 仙台・東仙台光ヶ丘研修所

・ 連絡先 オタワ愛徳修道会 Sr モニック

・ 詳細は5月号でお知らせします。

YBUテレビ

復活祭特別番組

	4月2日(土)	4月3日(日)
宮城TV	8:30	6:15
青森放送	6:30	-
福島中央	8:30	-
テレビ岩手	-	6:30 24:25

聖年特別番組

宮城TV	3月26日(土)	8:30
	3月27日(日)	6:30
テレビ岩手	4月10日(日)	6:30
青森放送	4月9日(土)	6:30
福島中央	3月26日(土)	8:30

八戸塩町教会

新聖堂着工までのあゆみ

塩町教会建設委員会

八戸塩町教会の新聖堂建築工事は、4月10日の起工式によつていよいよ始まることになつた。この数年間の体験を通して得た神の恵みやそのよろこび、またさまざまな苦勞や私たちの祈りを、この機会に教区の皆さまがたに分かちあえれば幸いである。

旧聖堂はすでに二年まえ、イメルダ幼稚園新築のため取り壊していたが、このほど司祭館も解体した。塩町教会七十年以上の歴史を刻み込んだ建物との別れは感慨もひとしおだが、そこに教会の確かな成長のあゆみをも感じている。

新聖堂建設計画は昭和51年にまでさかのぼる。当時の主任司祭齋藤石雄神父は、聖堂建設基金として教会会計に百万円を計上し、信徒に聖堂建設への氣運を促した。実現は遠い将来のこと、せめて孫子の代に実るようになるというのが、当時の信徒がたの正直な思いではなかつたらうか。しかし、「見える教会、づくりだけではない、見えない教会（共同体）づくりも」を合言葉に、早速バザー、映画会、廃品回収など、教会が一丸となつて計画をすすめる、着実に資金づくりをはじめた。

信徒を力づくよく支えたのは祈りである。教会建設のための祈りをつくり、塩町教会の保

護者「あわれみの聖母」のご絵に印刷して配布した。そして新聖堂が信仰の証しとなり、人びとに福音の光がもたらされるように。また日々の祈りと苦勞が愛の奉仕として受け入れられ、完成の喜びを味わうことができるように、熱心な祈りがささげられた。

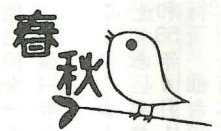
祈りの輪がひろがると共に個人の資金積立を開始して、信徒会を中心に建設委員会が結成され具体的準備に入つた。57年5月の信徒総会で58年4月の着工を決議、教区より正式の認可を得た。設計は盛岡市の山添設計事務所。この2月に前田建設工業との施工契約をかわし、今秋10月の竣工が予定されている。

新聖堂は司祭館、信徒館をも含んでおり、一部二階建の鉄筋コンクリート造。建物面積七百二十六平方メートルで総工費一億二千万円を予定している。この費用の大部分は塩町教会の信徒の拠出だが、他に教区内外からの援助もあり、一部は借入金によつて不足分を補うことも余儀なくされている。

不可能と思われていたことが現実となる日も近い。これまで多くの方からいただいた物心両面でのご援助、励ましを感謝します。これからも皆さまのお祈りと暖かいご援助をよろしく願ひします。

なお塩町教会新聖堂建設へのご寄付は、次の郵便振替、または教会に直接送つて下さつても結構です。

郵便振替 口座 盛岡八一四七八四
加入者 八戸塩町教会建設委員会



最近、やつと聖書が読めるようになった。
今までに、さまざまな本を読んできたが、その中には、感激したあまりに涙を流して読んだものや、面白さのあまり、つい徹夜をしてしまったものもあった。

しかし、読んで知っているようで知らないことが多くあるのが聖書である。小さな頃から、日曜学校やごミサで聖書について読んだり聞いたりしてきたが、いざ他人に聖書のことについて聞かれたりすると、明確な答えを言えないことなどが都度あつた。

自分では記憶に残っていると思つても、聖書をひもといて、その箇所を自分で読んでみて初めて理解した気がするものである。しかし目で表面的に文字を読むだけでなく、心から読むことで神様と話しをすることの楽しさが少しずつ分かり、やつとこのごろ聖書を改めて読む気になつたのである。聖書を読むのに身構えることなどなく、ちよつとしたきつかけで読むことができると思う。

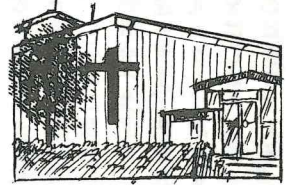
今までも読んできたが、聖書を本当に理解するのに一生かかると思ひが、読み続けていきたいと思ふこの頃である。

(信天翁)

おらが教会

(30)

青森・篠田教会



青森市内には四つの教会があります。本町、浪打、松ヶ丘（巡回）と篠田教会です。設立は昭和47年11月22日で、昨年十周年を祝ったばかりの一番あたらしい教会です。

初代の主任司祭はヴィンサン神父で、昭和54年2月までおよそ八年間、しかも教会の計画段階からかわつていたとのことですので、十年以上も篠田教会の司牧にあたつたわけです。

現在は二代目主任司祭としてジュベ・シル神父が担当しています。カナダ・ケベック州の出身で11人兄弟の長男とか、お若いのに貫録十分で私たちのよき牧者になっています。松ヶ丘教会は篠田教会の巡回になつているため、主任司祭の毎日のスケジュールはいつばいで、ときには昼食抜きで走り回つておられるとか……。

さて、教会の概要から申しませう。信徒台帳によると信徒数は百三十五人、六十三世帯（昭和58年1月現在）。ほんとうに小さな教会ですが、小教区の区域は青森市の西部一

田と東津軽郡蓬田村、蟹田町、今別町、そしていま注目の青函トンネルが掘り進められている三厩村竜飛までという広さで、市内教会ではいちばん広い区域を担当しているわけです。その広さのせいか、平常のミサ出席者は30人前後です。どこの教会も同じだが、篠田教会も圧倒的に女性が多く、婦人部の活躍がなければ教会活動がマヒしてしまふといわれるのも当然です。しかし子どもは男の子が優勢で、将来有望の声もあります。

篠田教会の特色といつたら、次に述べるような諸行事からおおよそ見当がつくことでしょう。

一年は元旦の深夜ミサから始まります。そして二月は青年部の自主的主催の「バレンタイン・パーティー」。毎年50人前後の若者が参加して、幸せなカップルも何組か誕生しました。「雪あそび大会」は老若男女ともども松ヶ丘教会にでかけ、松ヶ丘教会の皆さんと一緒にごミサに与ります。そのあと近くの丘で雪まみれになりながら楽しい一日を過ごすのです。春になれば遠足、野外でミサに与ります。夏は青森市内教会合同の運動会。人数が少ない小規模教会ですが、教会の一致団結の和を武器に、二年連続の優勝をなしとげました。秋はキノコ狩り。日本三大美林のひとつとして有名なヒバ林の眺望山で、野外ミサ後男性と子どもたちはキノコ探しのハイキング。婦人部はキノコ入り豚汁の準備にかかります。ハイキングを終えた空腹には、かくべつキノコ汁がおいしく感じられます。さいきはキ

ノコが少なく、豚汁だけのことが多いようですが……。そして最後に、ファミリー演奏会も当教会の特色でしょう。ミサ後、祭壇の扉を閉じた演奏会場で、エレクトーン、バイオリン、ピアノ、そして合唱と楽しい一日を過ごすのです。

このように書いてくると、遊んでばかりいるように思われるかも知れませんが、そうでもありません。主日のミサの後には、小学生や中・高校生のための要理の勉強があります。とくに小学生のためには、当教会独特の泊り込みの「サマー・スクール」が開かれています。そのほか、毎週きめられた日に「婦人のための聖書研究」、求道者のための「要理勉強」、そして未信者である主人のための要理の勉強も行われています。

また小教区の区域の広いことから、とくに信者同士のコミュニケーションの必要を感じ、毎月一回教会報「広報しのだ」を発行しています。

以上が篠田教会の概要ですが、いま教会の悩みは、サラリーマンの方が多いことから、信徒会の中心になつて働いて下さる男性の転任が多いことです。願わくは、働き手である男性信徒を一人でも多くお恵み下さい……！これが篠田教会のいまの切実な願いです。

……………

仙台司教区事務所だより第66号

昭和58年4月1日発行

発行所 仙台司教区事務所

980仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222 22 7371